

令和6年度 学校自己評価システムシート（私立 立教新座中学校）

目指す学校像	キリスト教に基づく人間形成を実践し、自由と自律を尊重する開かれた学校を目指す。
--------	---

重 点 目 標	1 基礎学力の定着と旺盛な学習意欲を育成し、真理を探究する力を養う。 2 価値観の違いを認識して、その経験を糧に大きな視野を備えた人物を育成する。 3 キリスト教に基づく隣人愛としなやかな個性を育成する
---------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校関係者評価		
出席者	学校関係者	9名
	生徒	名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価						学校関係者評価
年 度 目 標			年 度 評 価 （ 3 月 3 1 日 現 在 ）			実施日2024年6月11日
番号	課題	課題に対する取り組み	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・教職員研修	・研修への参加奨励	・教科、部署、部活動等における研修に参加 ・人権教育推進委員会主催講演会「人権教育としての包括的性教育～「命（いのち）の安全教育」について考える～」受講 ・ハラスメント防止対策委員会主催講演会「様々な課題を持つ生徒への対応～多様性に配慮したコーチング～」受講 ・学院主催のハラスメントに関するオンライン研修（2回）、内部公益通報の取扱いに関するオンライン研修受講 ・応急処置研修会、心肺蘇生法実習の実施	B	・研修の充実 ・研修を受けやすい環境の整備 ・非常勤講師を含む教職員全体に対する研修への参加奨励	・あらゆる面で最新の情報を入手、周知していく研修は重要性を増している。 ・教科教育以外の学校を取り巻く社会の変化に対応した研修に積極的に参加し、急増するハラスメント問題への取り組みを学院と連携して強めていることが窺える ・ハラスメント研修を学校として複数回実施している点は評価できる。 ・緊急時に生徒の安全を守るための救急救命講習を、教職員に徹底して実施している点は良い。 ・教科教育の研修のみならず、人間の尊厳である人権教育を実施するなど、研修プログラムが充実している。
	・教育環境の整備	・ICTを活用した教育活動の充実 ・教務システム BLEND への移行 ・出席簿のデジタル化 ・ICT 環境の整備 ・各施設・設備・安全および老朽化対策	・全学年で同じ端末（iPad）が行き渡り、ICTを活用した教育活動を展開 ・出席簿のデジタル化 ・希望する教科・科目による定期試験答案のデジタル返却 ・教務システムBLENDを利用した通知表デジタル開示、メール配信 ・ICT 環境の整備（ICT 支援員の増員、基幹サーバー更新、PC 教室3・4・5 更新） ・施設・設備・安全及び老朽化対策（中学1年生普通教室の床改修および壁塗装、セントポールズ・フィールドの改修）		・新教務システムBLENDの利用拡大 ・出席簿のデジタル化 ・配布資料のペーパーレス化 ・ICT 環境の整備（教員用 iPad 更新） ・施設・設備・安全及び老朽化対策（中学2・3年生普通教室の床改修および壁塗装、セントポールズ・ジムの空調更新、3号館校庭漏水対策）	・学校は適切にメンテナンスされている。 ・システムの外注化、統合型システムへの移行が落ち着き、ICT 環境の整備がなされるなど、積極的な取り組みは評価できる。また、体育施設なども含め、各施設や設備面の老朽化対策も進み、安全面への対応もなされている。 ・生徒のみならず保護者も含めた迅速な情報共有、DX 化に伴う教員の働き方改革などにもシステムを利用している点は評価に値する。 ・BLEND はまとめて閲覧することができ、未読・既読が一目瞭然のため、便利である。利用拡大との事で、期待している。 ・毎年教育環境の整備対象が開示されるため、安心できる。
2	・人権教育やボランティア活動	・人権教育の充実 ・ボランティア活動の奨励、機会の提供 ・いじめ・ハラスメント問題の啓蒙活動 ・いじめ防止対策の充実	・人権週間（6月）のチャペルアワー講話 ・学年ごとにテーマを決め人権教育実施 ・いじめアンケートを年3回実施 ・「教職員研修」記載の人権研修、ハラスメント防止研修実施	B	・人権教育の継続 ・実施可能なボランティア活動の機会提供 ・いじめ・ハラスメント問題の認識深化に向けた啓発活動	・高校よりいじめアンケートの頻度が多く、心身ともに未熟で若い中学生に対して、気軽に SOS を発信する機会があることは大変評価できる。 ・チャペルアワー等を活用し、人権教育を実施した点は立教らしい取り組みである。 ・学校として人権週間をカリキュラムの中で設定し、世代にあったテーマで実施している点は評価に値する。
	・情報リテラシー教育	・インターネットの安全な利用やマナーの指導	・全学年、外部講師による講習会を実施 ・保護者対象の講習会を実施		・講習会の継続 ・iPadの適正な利用	・小学校からタブレット学習に慣れてきた世代だが、学校からの継続的なマナー指導は重要である。 ・スマートデバイスの利用に係る教育は家庭との連携も重要であり、保護者向けの講習会を積極的に実施している。
	・グローバル教育	・本校のグローバル教育の推進 ・立教英国学院との派遣留学校の推進 ・リーダーシップの育成	・米国サマーキャンプ実施 ・ブリティッシュヒルズ英語研修実施		・立教英国学院への留学制度推進 ・留学生受け入れ	・実際に現地に行くプログラム、国内で体験できるプログラム、学校に通学することによって留学生と触れ合えるプログラムなど、多面的なプログラムを用意している点は評価できる。
3	・学校生活の支援	・生徒会活動のサポート ・スクールカウンセラーとの連携 ・特別支援教育の充実 ・学校活動の可視化	・生活のアンケートを各学期に実施。心配な生徒についてはその後担任面接、さらにスクールカウンセラー等の面接実施。 ・特別支援教育委員会主催の教職員向け講演会を実施 ・特別支援対象の生徒のスクリーニングの実施 ・Facebook、Instagramの充実	B	・保護者会や同窓会との連携強化 ・広報活動の継続と充実	・SNS の活用はうまくいっていると感じる。 ・生徒及び教員に向けて多様な支援を実施し、それらの活動を WEB で可視化し、周知した点は良かった。 ・生徒の多様化が進む中で、きめ細かな生徒対応、専門家による面接の実施、また講習会の開催などを行ったことは評価に値する。